

## 令和5年度 第1回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和5年11月28日（火）15：45～17：00

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

(構成員) 市長	横田 隆一
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	荒井 由紀恵
教育委員会委員	杉本 功
教育委員会委員	曙 嘉輝
教育委員会委員	柴口 史子
(教育部) 教育部長	松崎 正信
教育部次長	中島 肇
学校指導室長	松原 謙二
企画総務課長	井戸川 邦彦
学校教育課長	下口 剛彦
学校指導課長	三田村 要
企画総務課総務係長	阿部 健
学校教育課学校教育係長	橋本 和幸
(事務局) 企画部長	大和 隆之
企画部次長	米澤 宏樹
企画課長	大西 正起
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主事	小関 亮太

▼内 容

○大和企画部長

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和5年度第1回千歳市総合教育会議を開催いたします。

私は、企画部長の大和でございます。本日の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ここで本会議の議長であります横田市長からご挨拶をお願いいたします。

○横田市長

令和5年度千歳市総合教育会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、千歳市における教育の充実・発展、子どもたちの健全育成のためにご尽

力いただいておりますことに、改めて感謝申し上げたいと思います。

今日は、通算では16回目の開催となりますが、今年度は第1回、私が市長に就任してから初めての会議ということでありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

昨年開催した会議におきましては、「令和4年度全国学力学習状況調査の結果」や、実際に児童生徒が使っているICT機器を活用した「学力向上の取組」などを議題に、教育委員の皆さまとの意見交換を通して、本市における教育政策の方向性を共有し、大変有意義な場となったと考えております。

昨今の子ども達を取り巻く環境の急速な変化に適切に対応し、子ども達の学校生活がより豊かで活発なものとなるよう、今後も、この会議を通じて、これまで以上に連携や協力を深めながら、「学力の向上」、「学校環境の整備」、「学校間の連携」、「コミュニティ・スクールの推進」など、本市の教育行政の現状や課題などについての意見交換を行い、教育委員の皆さまと共通の理解・課題認識のもと、教育行政の推進に取り組んでまいりたいと思っております。

今年の夏は大変暑く、また、その期間も例年より1か月以上長かったということがありました。その対応については、教育委員会を通じて、学校現場からも話が来ており、子どもたちの健康管理という部分からも進める必要があると認識しており、過日、北海道防衛局や防衛省に要望活動を行ったところであり、適切な財源を見つけながら計画的に実施していきたいと思っております。

こういったことも含めて、学校の教育環境の充実についても引き続き取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆さまには、これからも様々な場を通じて、ご意見やご協力をいただければと思っております。

本日の議題は、「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」及び「部活動の地域移行」ということで、学校現場には様々な課題がある中で、この2つだけをとっても大変な課題であると思っておりますので、本日は、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○大和企画部長

それでは、ここからは事務局が進行を務めさせていただきます。

これより本日の議題に入りたいと思ひます。

1点目は「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」について、三田村学校指導課長から、説明をお願いします。

(資料に基づき、「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明。)

#### ○大和企画部長

ありがとうございました。

この件につきまして、意見交換をお願ひしたいと思ひます。皆さまからご意見やご質問などがあればお願ひいたします。

#### ○柴口委員

全国学力学習状況調査において、国語科に改善が見られたことはとてもよいことであり、算数・数学科と英語科は厳しい状況であることが分かりました。

また、探究型・対話型の授業を普段からやっていないと問題に対応できないということも理解しました。

講義型と探究型・対話型のメリット・デメリットをお話いただきましたが、探究型・対話型のメリットが多い一方、千歳市のこどものウィークポイントである「計算などの技能の習得に課題がある」、「算数が苦手な子などへの配慮が不十分になる」などのデメリットもあり、現場の先生の中には、すべてを探究型・対話型に転換してしまうのは、どうなのかと考えられている方もいるのではないかと想像するところです。

そのような中で、把握は難しいと思いますが、現時点でどの程度、転換が進んでいるのか、また、学校によっては温度差や進度の差があると思いますが、今後どのようにリードされていくのか教えていただければと思います。

#### ○三田村学校指導課長

現状については正確に把握することはできませんが、全国学習状況調査の結果から、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている千歳市の児童は「45.4%」ということで、全国の「38.6%」を上回っています。また、千歳市の生徒についても「36.7%」と、全国の「34.3%」を超えている状況にあり、「対話」については一定程度進んでいると考えています。

一方で、基礎的な部分について、懸念の声をいただきましたが、その通りであると考えています。

すべての時間を探究型・対話型の授業で進められるわけではなく、基礎的な部分については、反復や習得する場面が必要となり、その際は、少人数指導を並行して行うことで基礎学力を習得することが重要となってきます。

担任にとって一番大事なところは、どの場面で探究型・対話型の授業を行うのか、反復や習得型の授業を行うのかといった、1時間の授業だけではなく、長いスパンで見た指導計画を立てることであり、これについては、ある程度の経験値も必要となってくるので、校内で組織的に指導計画を立てることが重要となってきます。

#### ○杉本委員

千歳市の学力の課題としては、読解力と記述力の向上があると思いますが、全国学力調査、高校入試、そして大学共通テストでも読解力や記述力を一層求められるような形式になってきており、小学校・中学校段階では、継続的に読解力や記述力の向上を目指すことが大事であると認識しています。

読解力と記述力の向上については、毎年言われていることではありますが、各学校でどのような取組をしているか、また、特徴的な学校はあるのか教えていただければと思います。

#### ○三田村学校指導課長

読解力・記述力に関しましては、市内各校において、学力向上に向けた学校改善プランに位置付けて取組を進めています。

各学校におきましては、例えば、1時間の中で意図的に書く時間を設定したり、学習のまとめや振り返りを書かせたり、新聞の記事を基に自分の考えを書かせたりなど、各校の実態に応じて改善プランを全員でやり切ること、学校全体で組織的に進めることが大切であると考え、学校指導課においても、指導・助言を行っています。

顕著な例としましては、信濃小学校とみどり台小学校が、文部科学省の学力調査官であった大妻女子大学の樺山俊郎教授が進める「読解力を経由する記述力向上プログラム」に昨年から参加しています。

同プログラムでは、多読多書を中核に据え、目的に応じて比較や検討をするために、「いろいろな資料を読み重ねる」、「友達との対話の中で書き足しや書き直しを何度もさせる」、このようなことを繰り返すことによって、読解力・記述力を向上させていく、もしくは、書かせるときにも「時間・字数・条件」を常に与えることによって、自由に書かせるだけでなく、制限を加えるということもプログラムとして取り組んでいます。

このプログラムについては、市内の巡回指導教員や学力向上検討委員会の学校からも研究会に参加していただき、広く市内に共有できればと考えています。

#### ○杉本委員

各学校の取組、そして市教委が行っている研究会等について、その内容を一般化するために、市内全体に周知していくことがとても重要であると思われました。

#### ○荒井教育長職務代理者

学力向上にはやはり、学校現場だけではなく、家庭学習も大切だと思っております。

先ほどのご説明のとおり、小学校では1日あたり1時間以上勉強しており、家庭学習が定着している一方、中学校に入るとその時間が下がっており、ここが課題であると考えます。

今年、全校に導入したデジタルA Iドリルの活用に大きな期待をしているところですが、デジタルA Iドリルを導入した現在の活用状況と、従来の紙のドリルを比較して、その学習効果について、教えていただければと思います。

#### ○三田村学校指導課長

デジタルA Iドリルは、夏に市内各校に導入されましたが、子どもたちが意欲的に取り組んでおり、報告では有効に使えていると聞いています。

デジタルA Iドリルの1番の利点としては、個に応じた家庭学習が可能ということがあり、画一的なプリントを解くとなると、数学など能力差が大きくなり、問題を解けずに家庭学習に繋がらないといったことが考えられますが、デジタルA Iドリルでは、自分のペースや内容、量で進められるほか、問題を間違えると類似問題が自動的に出題されます。

また、学習履歴も残るため、担任は学習履歴を見て、それぞれの生徒がどの程度取り組んでいるのかも把握することが可能になりますので、それに基づきアドバイスを行うことができます。

さらに、小学校から中学校までの9か年間、どこの分野も自由に取り組むことができるの

で、小学生が中学生の問題を解いたり、中学生が苦手な分野の問題を戻って勉強できたりすることも大きな利点だと考えています。

また、漢字練習については、書き順が画面上にアニメーションとして表示されるほか、書き順があっているかどうかもAIで正誤の判定をすることができますので、漢字練習についても自分のペースで進めることができ、より効果的な学習が進められると考えます。

○横田市長

小学校と中学校の全国学力・学習状況調査の問題は、何年生が対象となっているのでしょうか。

○三田村学校指導課長

小学6年生と中学3年生が対象となっており、4月に実施することから、内容はそれぞれ小学5年生までと中学2年生までの問題となっています。

○横田市長

習熟度別授業について、例えば、授業の進行状況に応じてグループ分けをして、その中で、今まで通りの授業をしたり、そこに対話型も取り入れたりしていくといった理解でよいのでしょうか。

○三田村学校指導課長

これまでは、例えば割り算の勉強をしたときに、最初から最後まで習熟度別にクラスを分けて授業を行うこともあり、その際、先生は苦手な子に対して、かみ砕いたわかりやすい説明を行い、説明を受けた子どもたちはわかった気持ちになるのですが、それではただ座って教えてもらうのを待つだけとなってしまいます。

根本的な割り算の式を求めるような場面では、友達のより良い考えに触れ、こういう風に解いたらいいのではないかということを全員で交流させるということは、多様な考えに触れるという意味で大変良いことであると考えています。

他方、割り算の筆算のように繰り返し練習する場面になると、能力差が大きくなるので、ここでグループを分けるといった形となります。

単元の中でみんな一緒に考える場面と得意な子と苦手な子で分ける場面もありますし、また、一時間の中で最初に説明を聞いて理解できた子はどんどん進めますし、わからなかった子は別の部屋に行って丁寧に教えてもらうといった形になっている場合もあり、組合せは多種多様となっていますが、1番大事なことは、担任と学習のサポートに入る先生の二人が同じ指導観を持って指導をおこなっていくことが重要であることから、時間のない中ではありますが、打ち合わせを重ねることが非常に重要となってきます。

○横田市長

もう1点、進行度や理解度をはかる手法として、従来はテスト形式であったと思いますが、現在も同様なのでしょうか。

○三田村学校指導課長

現在もテストを基本として、学力を把握する手法として用いられていますが、このほかにもA Iドリルの導入により、ドリルの到達度によって把握することもできるほか、子どもからの申し出による場合もあります。

○大和企画部長

委員の皆様から、ほかに何かございませんか。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、議題の2点目「部活動の地域移行について」、下口学校教育課長から説明をお願いいたします。

(「部活動の地域移行」について、動画を視聴したのち、資料に基づき説明。)

○大和企画部長

この件につきまして、意見交換となります。

2点目の「部活動の地域移行」について、委員の皆様からご質問やご意見はございませんか。

○荒井教育長職務代理者

現状、千歳市では総合型地域スポーツクラブはないとのことですが、近隣では設立されているのでしょうか。

○下口学校教育課長

恵庭市では、北海道ハイテクノロジー専門学校と提携して設立された「ハイテクACアカデミー」や恵庭スポーツ協会が設立している「えにお総合型スポーツクラブ」、北広島市では、町内会が発足した地域クラブもあり、設立の経緯につきましては、様々となっています。

○柴口委員

人材の発掘は苦勞されることが想定され、スポーツの技能はあっても指導した経験が少ないという方にも広く声掛けをしていかなければならないと思います。

昨今は、指導を受ける子どもたちの感情も変わってきており、部活の指導者の先生であっても少しの厳しい指導で暴言ではないかと言われたりすることもあります。また、ご高齢の方になると、昔はそういう指導が当たり前だったというようなこともあります。

人材が少ない中で、ボランティア精神をもってきてくださる方が楽しくやっていくことを考えたときに、研修や情報提供、指導内容のすり合わせなど、何かしらの対応を考えているのか教えていただきたいです。

○下口学校教育課長

部活動指導員を配置する前に、指導時の体罰やハラスメントの防止、対話を重視した指導や中学生個人の自主性を引き出すようなコーチングスキルの重要性などに関する基礎的な

内容の研修を行ってから配置することを検討しています。

#### ○佐々木教育長

はじめに視聴いただいた動画は、他県での取組であります。地域移行への課題や取組の一例を紹介する内容となっております。行政の取組が遅れているためか、紹介されておらず、教員側が地域でクラブを立ち上げ、地域移行の全ての取組を実施している内容でしたが、これは特異な例であり、国は、行政が地域のスポーツ・文化芸術活動の環境を整備するものとしております。

地域移行の取組は、学校の部活動を、地域に受け皿となっただき、地域の少年団活動のように移行していくというような考え方もありますが、その場合、学校での指導の方針とは異なる指導が、地域のクラブ活動で行われる可能性があるということを、生徒や保護者がどれだけ受け入れられるかなど、様々な課題が想定されます。

国は、行政が地域移行の取組を進めることとしておりますが、財源の課題が整理されておらず、基本的には保護者が費用の負担を行い、それを軽減するために企業等に協賛を求めるといったことが考えられております。また、既存のスポーツ少年団なども保護者の負担が基本となっております。

自治体が費用負担する場合においても、財源の確保の課題や、どのような経費に対して補てんを行うのか、地域クラブ活動に千歳市民ではない子どもが参加する場合は、どう考えるかなど、様々な課題が想定されます。

地域にスポーツクラブを設立する場合、受け皿となる団体側からの視点では、「財源や人的な支援などがない中で、なぜ団体側が学校の部活動の受け皿となる必要があるのか」、「費用を保護者に負担させてよいのか」といった感覚もないわけではありません。

これらのことを踏まえると、部活動の地域移行は、学校だけではなく、地域全体としてスポーツ環境の在り方やスポーツ人口の裾野を広げる取組として、関わる人たちが皆、同じ考え方で進めていく必要があるものと考えています。

教育委員会としては、既に様々な取組を進めており、主導的に進めていく必要があると考えておりますが、様々な課題を解決するためには、市全体として、スポーツの振興という大きな視点で取組を進めていく必要があり、可能な限り関わる人を増やし、多くの意見を聴きながら進めていかなければいけないと考えております。

#### ○大和企画部長

そのほかに何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次に議題の3点目「その他」といたしまして、委員の皆様から何かございませんか。

ご意見などないようですので、以上をもちまして、本日の議題はすべて終了となります。

次に、次第の「4 諸連絡」についてであります。今年度の会議はこれで終了となります。

このほか、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時開催いた

しますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上であります。  
以上をもちまして、令和5年度第1回千歳市総合教育会議を終了いたします。  
大変ありがとうございました。